

令和 3 年

理 事 長 挨拶

塩原カントリークラブ

理事長 渡邊 勇雄



新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては良いお年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

旧年中は格別のご愛顧を賜り、誠にありがとうございました。

令和 2 年春先より発生いたしました新型コロナウイルス感染が瞬く間に広がり、全世界的に今までと全く違った生活を余儀なくされました。ゴルフ・スポーツの世界も東京オリンピックの延期に始まり、国民体育大会の中止、プロトーナメントの中止・延期、無観客試合の開催等一変してしまいました。当クラブにおきましても開場記念祭・クラブ選手権等各競技の延期や受入れ営業形態の変更等かつてない 1 年となりました。そのような中でも会員の皆様におかれましては、クラブ運営にご理解ご協力を戴き、有難く厚く御礼申し上げます。

本年も引き続きコロナに寄り添う生活が続くと思われませんが、2022 年 10 月に開催予定の「いちご一会とちぎ国体」使用コースとして誇れるコースづくりに邁進していく所存です。

具体的には南、北コースメイングリーンを新ベント種へ変更（南コースは改修済み 4 月後半より使用再開）し、安定したボールの転がりを提供できるようにします。会員の皆様におかれましても、改修の状況を体感すべくご家族、ご友人をお誘い合せの上、ご来場戴きますようお願い申し上げます。

末筆となりましたが、会員の皆様とご家族のご健康、ご繁栄を祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



新型コロナ感染予防に万全を

新年早々、8日から東京、埼玉、千葉、神奈川の1都3県について、政府から緊急事態宣言が出されたのに続き、栃木県でも新年を境に感染者数、陽性率とも跳ね上がり、13日に緊急事態宣言地域に追加された。県内の各ゴルフ場も感染防止策の徹底に苦心の模索を展開している。塩原カントリークラブでも安心してプレーが出来るコースとして、感染対策に万全を期すことにし、会社側も各部門の知恵を絞った防止策を実行して行くことにしている。

昨年暮れから始めているバンカーレイキの撤去もその一つで、何人かが同じレイを使うとその柄の部分を通して感染リスクが高まると考えられるためだ。バンカーならしは足でやってもらうことにしている。足跡などは足でならすことになるが、ならし方が不十分な場合もある。こうした場合、月例杯など競技での救済をどうするか、競技委員会でローカルルールが必要かどうか検討することになっている。

新年からは4人乗り電動カートのほかに、1人用手引きカートを用意、電動カートでは“密になる”と危惧する人には、手引きカートを使ってもらえるようにする。また、カートに消毒剤の配置も検討する。

さらに、レストランでは全体の半分にあたる11卓分について、卓上を4分割する透明のパーティションを設置、食事時の感染防止を徹底する。また、風呂やロッカーについても、安全策を強化出来ないか検討して行く。

「うつらない」「うつらない」ために、会社側は万全の構えでいるが、メンバークラブとしても、そうした努力に対する協力を惜しむことのないようにしたい。





今年は北コース。グリーンの改良工事

昨年のお盆明けから施行していた南コース9ホールグリーン（メーングリーン）の改良工事が順調に進み、すでに新しいベントグリーン上でのパッティングに手応えを感じているプレーヤーも多いだろう。

改良工事は旧来のグリーンに除草剤をまき、1～2週間で芝とともに雑草まで枯らして撤去、エアレーションを施し新しい種を播く。新しく播種されたのは「シャーク（鮫）」というベント芝。グリーン芝の難敵はスズメノカタビラという雑草だが、「シャーク」は密集性が高くカタビラの進入を防ぎ、「カタビラ」を食べてしまうかのたとえで名付けられたという。

グリーンの回りの刈り込みも施されたホールでは、見違えるような再生ぶりで、「国体会場として申し分のないコース仕上がる」との太鼓判を押す声も聞かれる。今年工事に着手する北コースではすでに、グリーン周辺のカタビラ取りに入っている。今年のお盆明けに工事に入り、来年のゴールデンウィークには使用が可能になるという。また、同時に枯れた赤松の撤去作業も進められる。

ボランティアで雑草取りを呼びかけ —コース委員会—

一昨年、フェアウェイの白杭の交換、目土入れを主導したコース委員会では、早坂幸治委員長らが中心になって、ボランティアによるグリーン回りの雑草取り、目土入れなどを提唱、今年2月8日からの毎週月曜日の午前中に行われる。

グリーン回りで根絶しにくい雑草の一番手は、イネ科の1年草のカタビラ。3,4月になると穂先が出て、白い花をつけて目立つようになる。緑の葉の茎が細く抜こうとしても土中に根が残ってはびこってしまう。カタビラの多いか少ないかはそのコースの格付けの指標のひとつともいわれ、国体で使われる南、北コースのグリーンの改良と歩調を合わせて行われる。

作業は午前10:00から2時間の予定で行われ、会社側から昼食が用意されて、それを食べて解散になる。また、ボランティアに2回参加した人には無料プレー券1枚が進呈される。メンバーだけでなく、近隣の人たちにも参加を呼びかけている。



喫煙マナーの向上を ―フェロシップ委員会―

昨シーズンの後半、コース内にタバコの吸い殻が目立つという声が聞かれるようになった。コース内で喫煙が許されるのは灰皿が設置されている場所に限られている。灰皿はカート、ティーイングエリア、コース売店に設置されており、この三カ所が喫煙場所となる。ただ、カートの灰皿は火を消すためのもので、同伴プレイヤーの受動喫煙を防ぐため、カートでの喫煙は出来るだけ避けたい。ましてや、コース内への吸い殻のポイ捨ては厳に謹んでもらいたい。

塩原カントリークラブ！攻略編！！【北コース】 ― 中里 鉄也プロ ―

☆ 北コース3番 ☆



【コース解説】

3ヤード打ち下ろしのショートホール。

グリーン手前の右にバンカーがあり、グリーンは中央に手前から奥に向かって馬の背になっている。

【中里プロからのアドバイス】

大抵のコースだと、手前から攻めるのがセオリーだが、このショートに関しては、奥からのアプローチの方が寄せやすい。

大き目のクラブで打っていきたい。

次回は、北コース4番を紹介します!!





学帽をかぶったキャディー姿の小針少年がスイングした写真が残されている。左腕をきれいに折りたたみ、視線は飛球線方向、腰は回って正面に向いている。左足は地面に吸い付くように動かず、右足のかかとを上げ、グリップは頭の左上にきれいに収まり、無駄な力を感じさせない。誰が見ても、ほれぼれさせるようなフィニッシュである。クツはズックのように見えるが、ひょっとすると、当時、子どもの間に普及していた、ゴム製の短靴のようにも見える。頭に学帽をかぶっているから、春芳少年がラウンドを許されるようになって、そうたたないうちに撮られたと思われる。

それは、春芳少年の果てしない才能を予感させるのに十分過ぎる。後年、小針はその頃に練習でラウンドした時のスコアについて、こう語ったことがある「確かハーフで42ぐらいだった。それまでは、棒切を振り回してただけだったから。ボールにクラブヘッドを当てることしか考えていなかった。心の中は、とにかく無垢の状態だったような気がする」

春芳少年は倶楽部の敷地内にあった寄宿舍から、決められた八時には出社し、キャディーとして仕事を完璧にこなすと、練習にのめり込み、身分はキャディーでも、実質的には研修生扱いとなって行った。

那須ゴルフ倶楽部は栃木県で初めて出来たゴルフ場だから、小針少年にとって、「師匠」と呼べるプロはいなかった。所属の岩田新造プロから基本の手ほどきを受けはしたが、小針の述懐によると、「ゴルフ雑誌の写真を参考に練習した」という。最初に握るクラブはパターだった。次いでグリーン周りのアプローチ。それも30ヤード、50ヤード、一〇〇ヤードごとに繰り返す。そしてスプーン、バッドフィから最後にドライバーだった。「ゴルフの最後はパター。ドライバーで300ヤードを飛ばしても、3パットすればボギーだから」とパットの練習に徹した。

雑誌以外にハンディキャップ2のお客さんのスイングも参考になった。その人のキャディーについた時は、クラブヘッドを凝視し、その使い方を覚えようとした。体の動かし方ではなく、ヘッドの動かし方。もっと言えば、ボールに対するフェースの当て方が肝心なことだと考えた。それには、大きな理由があった。それを本人に言わせるとこうなる。

「ワイは体が硬かった。だから、雑誌の写真を見ても、同じようには動かない。写真のように肩が入らないんだ。ところが、その人のスイングを見て感じたのは、肩を動かしているわけではなく、クラブヘッドを動かすから、それについて両肩が動くに過ぎない。そう感じて、クラブヘッドをどう上げれば、左にあるいは右に行かないということを知れば怖いものはないと思った」



那須の小天狗…小針春芳伝 ⑤

確かに小針少年は、手も足も、体の関節は硬かった。胡座をかこうとすると、上体が後ろにひっくり返ってしまうことがままあったという。だから、体を使って打つショットは無理だと見限った。だから、アドレスしたらフェースだけを見て、それを思い通りにボールに当てることにだけ集中する。これを、繰り返し練習した。

「フェースを見るというのは、その向きを見るわけ。アドレスでヘッドをスクエアに置いたら、バックスイングで手が腰の辺に来た時に、フェースがどこを向いていれば真っ直ぐ飛んで、どう向いていれば左、あるいは右に行くというのがわかってくる。ドライバーからアプローチまでヘッドの動きしか見ない。球はフェースで打つんだよ」小針少年はその頃から、自分でゴルフを考え、自分のゴルフを練習していた。「師匠はいないし、本物のトッププロにも会えない。雑誌をまねるか、自分で考えるしかなかった」。(つづく)





編集後記

新型コロナの感染拡大の収束を願って迎えた2021年だったが、残念ながらその思いは叶わなかった。8日から東京、埼玉、神奈川、千葉の1都3県に緊急事態宣言が発令され、本県も仲間入りした。昨年はこの「Web 会報・塩原」もコロナ騒動のあおりで休載してしまったが、今年はコロナの収束はいうまでもなく、来るべき国体の成功を願いつつ掲載を継続したいと念じている。コースの本格整備や国体に向けての話題もタイムリーにお届けしたい。ともあれ、コロナの早期収束を願い、安全、安心のコースの実現に、協力を惜しむことのない年にしたいものである。

井上 安正

